

令和元年度「わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業」事業実績報告書(大館市)

1 教育・保育の現状と課題

市の教育・保育の課題
<p>(1) 教育・保育の質の向上に向けて、教職員の資質向上、園内リーダーの養成と園内研修の充実等の体制が構築されたが、それらの幼児教育センター機能を安定させていく必要がある。</p> <p>(2) 多様な保育施設、多様な働き方の職員が協働する中、市が目指す就学までに育てたい力、保育・教育の在り方を共通理解し、具体的実践に移していくには園ごとの温度差がある。</p> <p>(3) 小学校との情報共有、合同研修はあるものの、小学校入学後の生活や学習への適応や指導に困難を抱える事例が見られる。</p>

2 目的、重点、実施内容

目的(3年間)
<p>将来の自立を見据え、就学前の段階で育てるべき力を明確にし、教育・保育の一層の充実を図る。ふるさとキャリア教育の理念の下に、就学前から小学校低学年までを「人間的基礎力」を育成する時期として、関わる教職員が、子ども理解の在り方、教育・保育課程や指導方法等について共通理解を図り、連携を推進する。</p>
重点(令和元年度)
<p>新メンバーによる指導体制を確立させ、基幹保育園以外の施設への周知を図り、訪問指導の要請、及び市主催研修会への参加を拡大していく。</p>
実施内容(令和元年度)
<p>(1) 教育委員会教育研究所と福祉部子ども課、基幹保育園の連携体制による訪問指導、事業・研修会の開催</p> <p>(2) 教育・保育アドバイザーによる市内全園への巡回訪問・指導</p> <p>(3) 教育・保育アドバイザー並びに市内全園の研修リーダーの養成、基幹保育園の公開保育による研究成果の発信</p> <p>(4) 就学前施設・小学校の教職員を対象にした合同研修会の充実</p> <p>(5) 秋田県教育庁幼保推進課との連携体制の強化</p>

3 令和元年度の実施状況

- (1) 教育委員会教育研究所と福祉部子ども課、基幹保育園の連携体制による訪問指導、事業・研修会の開催

目的	<p>部局間連携により、各施設の課題解決に向けた情報提供や指導助言、市主催の研修会により多様な研修の場を提供する。</p>
----	---

実施状況	①市主催研修会：保育補助研修会（4/19）、年齢別研修会（5/9,5/23,5/24,5/27,5/29,5/30） ファシリテーター研修会(6/24,7/30,11/13,12/5)			
	研修名（期日）	講師・発表者（内容）	参加（人）	
	年齢別研修（全6回） 「〇歳児担任研修会」 (5/9,5/23,5/24,5/27,5/29,5/30)	県指導主事 市保育アドバイザー (〇歳児の教育・保育)	251	
	職種別研修（保育補助対象） (4/19)	市保育アドバイザー (保育のすってぶによる)	23	
	主任・ミドルリーダー研修 「ファシリテーター研修会」 I～III（全4回） (6/24,7/30,11/13,12/5)	県幼保推進課主任指導主事 (園内研修の効果的な進め方) 北教育事務所指導主事 (保育の見取り、研修の組立)	112	
	特別支援教育研修「発達支援 セミナー」(5/25)	巡回支援専門員 (多様な子どもの発達と支援)	51	
	研究実践発表（全2回） (2/21, 26)	城南保育園分園 東館保育園、子ども課	66	
	研修テーマ	講師	企画園(期日)	参加(人)
	家庭でもできる取組	環境あきた県民フォーラム	城南保(2/27)	18
	気になる子への対応	比内支援学校教育専門監	城南分(9/6)	14
水の事故時の対応	日本赤十字秋田支部職員	有浦保(7/1)	41	
子どもの食事あれこれ	子ども課保健師	扇田保(1/28)	39	
救急時の対応方法	市立総合病院小児科医	たしろ保(10/10)	50	
②基幹保育園主催の研修会：オーダーメイド研修				
③基幹保育園主任会議との連携による研究推進（月1回） 園長会、所長会への参加、情報提供や協力要請				
④各小学校低学年の研究授業へ参加ができるよう各小学校へ市教委からの通知				
⑤全小学校、園への訪問記録等による市教委内での情報共有				

(2)教育・保育アドバイザーによる市内全園への巡回訪問・指導

◇教育・保育アドバイザーの施設訪問状況(平成31年4月～令和2年3月)							
	幼稚園	うち、幼稚園型 認定こども園	幼保連携型認 定こども園	保育所	うち、保育所型 認定こども園	※その他 保育施設	小学校
施設・校数	1園	0園	8園	10か所	0園	21か所	17校
訪問施設・ 校数	1園	園	8園	10か所	園	10か所	1校
訪問回数	3回	回	22回	61回	回	25回	1回
月平均 訪問回数	0.25回	回	1.85回	5.08回	回	2.08回	0.08回
*僻地保育所、児童館、小規模保育、事業所内保育施設、認可外保育施設							
目的	教育・保育アドバイザーの配置により、子ども課保育アドバイザーとともに、全施設の巡回訪問を通じて各施設の課題解決に向けた情報提供や指導助言をする。						
実施状況	<p>① 教育委員会教育研究所に、教育・保育アドバイザー1名を継続配置</p> <p>② 市福祉部子ども課の保育アドバイザーと本事業の教育・保育アドバイザーを核に据えた訪問指導(6月5日～1月24日まで、のべ45回) 内容:研究の進め方、研究計画の作成、各園の研究テーマに基づく研修など</p> <p>③ 基幹保育園・指定管理保育園以外の施設への積極的な周知活動 「ミニ公開保育だより～見取りと学び～」による情報提供</p> <p>④ 全施設に対する指導・助言体制構築 ・単独訪問24回 ・県との同行訪問21回</p> <p>⑤ 研修会の見直し、課題を踏まえた新たな研修体制の構築 ・園内研修の内容、進め方への指導助言</p> <p>⑥ 園内研修リーダー、ミドルリーダーの養成 ・園内研究計画作成への助言、指導案作成の事前指導 ・ファシリテーター研修会における指導</p> <p>⑦ 各種マニュアル、様式の統一データの作成と提供 ・児童票、個別の支援計画の市様式の改訂、「記入の手引き」作成</p> <p>⑧ 必要に応じた教育・保育アドバイザーの要請・活用 68回 ・年度初めの計画から、随時、要請に応じた訪問</p>						

(3)教育・保育アドバイザー並びに市内全園の研修リーダーの養成、基幹保育園の公開保育による研究成果の発信

<p>目的</p>	<p>基幹保育園が中心となり、全保育施設に向けて研究成果や自園の保育を公開し、市が目指す保育を具体的に共有することで、保育の質向上の意識や意欲を高める。</p>																																																												
<p>実施状況</p>	<p>①基幹保育園・指定管理保育園によるミニ公開・・・<新規>参加者と園の意見交換を、公開保育後に1時間程度、設定。ミニ公開保育の感想や指導助言をお便りとして市内全園に配付。(9園分、3号)</p> <table border="1" data-bbox="363 660 885 1254"> <thead> <tr> <th></th> <th>公開園</th> <th>期日</th> <th>参加者(人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>城南保</td> <td>1/24</td> <td>24</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>城南保分園</td> <td>8/23</td> <td>34</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>有浦保</td> <td>6/25</td> <td>26</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>扇田保</td> <td>9/19</td> <td>27</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>たしろ保</td> <td>7/11</td> <td>27</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>釈迦内保</td> <td>10/17</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>十二所保</td> <td>10/12</td> <td>26</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>西館保</td> <td>10/2</td> <td>26</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>東館保</td> <td>8/21</td> <td>27</td> </tr> </tbody> </table> <p>②市県外からの視察の受け入れ、交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・・・外部からの客観的な評価を得るとともに、他市と情報交換ができた。 北海道浦河町立保育所(保育士3名)から有浦保育園へ 9/26 鹿角市錦木保育園(保育士2名)からたしろ保育園へ 11/28 北秋田市しゃろーむ(保育士1名)から城南保育園分園へ 12/6 <div data-bbox="893 593 1404 1299">  <p>◎子ども一人一人を、誰か一人ひとりで愛護している保育士の関わりが見られ、ゆったりした雰囲気の中で子どもたちが安心して感覚遊びなどを楽しんでいました。自己主張している姿も見られ、保育士等がそれを受け止めて関わっていました。</p> <p>◎思い思いにやりたい遊びをしていました。友達と一緒に遊ぶことが楽しい!という子どもの思いが伝わってきました。室内と戸外を混同することが保障され自由に行き来をしている子どもの姿もあり、外でも子どもが行きたい場所に行きたい場所で遊べる保障がされていて子どもの思いが大事にされていました。</p> <p>◎先生たちが子どもと共に遊んでいました。子どもと楽しさを共有している場面もあり、これからもこのスタンスを大事にしたいものです。</p> <p>◎子どもたちだけの遊びに保育士等がどのように、どのようなタイミングで関わるのか、あるいは直接関わらないで見守るのか、常に判断を迫られる場面があると思います。保育中は瞬間瞬間に判断して援助しています。だからこそ、後で自分の保育はどうであったのかを振り返ることがとても大切です。その積み重ねがあってこそ、自分の保育を意識しながら関われるようになっていくと思います。 9月19日 扇田保育園</p> <p>◎全身を動かして遊べる環境がたくさんありましたし、五感を刺激するような環境も準備されていました。風に吹かれるトンボのカード、鈴の音、ひまわりのトンネルなど工夫された豊かな環境で遊ぶ子どもの姿がありました。</p> <p>◎トランプの場面がありました。先生はすぐに口を出さず見守っていました。口を出すのは簡単ですが、先生はよく我慢して待ったと思います。トランプは、子どもが育つ一つのチャンスでもあると捉えてみて、子どもの力を信じ関わってほしいです。</p> <p>◎友達関係が固定化されていく時期(5歳児)です。子ども同士の話し合いの中で自分の思いを主張する子どもが話をどんどん進めてしまい、自分の思いを言えない子どもは言えないままという場面がありました。そこでどう保育士等が関わっていくかが人間関係作りの上で大事になってくると思います。</p> <p>◎ファシリテーター研修会で学んだことを実践していく姿勢が素晴らしいと思います。みんな「あでもない、こうでもない」と意見を言い合いながら進んでいる姿勢から、一生懸命さが伝わって先生方の保育に対する真摯な姿勢が感じられた研修会でした。 10月2日 西館保育園</p> </div> <p>アドバイザー発行の「ミニ公開保育だより～見取りと学び～」</p> <p>③主任・ミドルリーダーの養成・・・基幹保・指定管理保・認定こども園・へき地保育所の主任が参加</p> <p>ファシリテーター研修会の開催状況</p> <table border="1" data-bbox="391 1680 1380 2094"> <thead> <tr> <th></th> <th>開催日</th> <th>会場(参加人数)</th> <th>講師(内容)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>6月24日</td> <td>中央公民館 31</td> <td>県幼保 齊藤主任指導主事 (参加型研修でのファシリテート)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>7月30日</td> <td>中央公民館 31</td> <td>県幼保 齊藤主任指導主事 (協議進行の組立、効果的な進め方)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>12月5日</td> <td>中央公民館 31</td> <td>県幼保 齊藤主任指導主事 (研修・研究計画の進め方)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>11月13日</td> <td>福祉センター 19*他市から4</td> <td>北教育事務所 浅野指導主事 (保育の見取り、研修の進行)</td> </tr> </tbody> </table>		公開園	期日	参加者(人)	1	城南保	1/24	24	2	城南保分園	8/23	34	3	有浦保	6/25	26	4	扇田保	9/19	27	5	たしろ保	7/11	27	6	釈迦内保	10/17	30	7	十二所保	10/12	26	8	西館保	10/2	26	9	東館保	8/21	27		開催日	会場(参加人数)	講師(内容)	1	6月24日	中央公民館 31	県幼保 齊藤主任指導主事 (参加型研修でのファシリテート)	2	7月30日	中央公民館 31	県幼保 齊藤主任指導主事 (協議進行の組立、効果的な進め方)	3	12月5日	中央公民館 31	県幼保 齊藤主任指導主事 (研修・研究計画の進め方)	4	11月13日	福祉センター 19*他市から4	北教育事務所 浅野指導主事 (保育の見取り、研修の進行)
	公開園	期日	参加者(人)																																																										
1	城南保	1/24	24																																																										
2	城南保分園	8/23	34																																																										
3	有浦保	6/25	26																																																										
4	扇田保	9/19	27																																																										
5	たしろ保	7/11	27																																																										
6	釈迦内保	10/17	30																																																										
7	十二所保	10/12	26																																																										
8	西館保	10/2	26																																																										
9	東館保	8/21	27																																																										
	開催日	会場(参加人数)	講師(内容)																																																										
1	6月24日	中央公民館 31	県幼保 齊藤主任指導主事 (参加型研修でのファシリテート)																																																										
2	7月30日	中央公民館 31	県幼保 齊藤主任指導主事 (協議進行の組立、効果的な進め方)																																																										
3	12月5日	中央公民館 31	県幼保 齊藤主任指導主事 (研修・研究計画の進め方)																																																										
4	11月13日	福祉センター 19*他市から4	北教育事務所 浅野指導主事 (保育の見取り、研修の進行)																																																										

(4)就学前施設・小学校の教職員を対象にした合同研修会の充実

<p>目的</p>	<p>市としての教育・保育の基本方針を明確にし、就学前と小学校低学年が「おおだて型学力」の「人間的基礎力」育成の時期であることを認識し、共に実践する機運を高める。</p>
<p>実施状況</p>	<p>① 幼保小連携推進会議：「幼保小連携プログラム」リーフレットの周知と活用 期 日：令和元年5月22日 会 場：大館市立上川沿公民館 参加者：小学校教頭17名、園主任26名参加 行政関係者7名 内 容：挨拶 北教育事務所 浅野直子指導主事 講話 「大館市の推進体制」大館市教育委員会 山本多鶴子教育監 小学校区ごとの協議（交流の年間計画について）</p> <p>② 幼保小担任研修会：小学校低学年の授業改善に向けた研究会の開催 期 日：令和元年5月30日 会 場：大館市立中央公民館 参加者：小学校1年担任17名 年長組担任30名、行政関係者6名 内 容：講話 「幼児期の教育と小学校教育の滑らかな接続について」 北教育事務所 浅野直子指導主事 武石郁子指導主事 「幼保小連携プログラム大館モデル」 大館市 日景恭子前保育アドバイザー 小学校区ごとの協議（具体的な連携・交流について）</p> <p>③ 市教職員夏季研修会（7月31日 秋田職能短大） ・「学級経営・子ども理解に生かすペアレントトレーニング」 講師：比内支援学校 畠山佳子教育専門監 参加：幼保小中 49名 ・「マルチトリートメントを受けた子どもの行動異常と発達障害 ～メディア依存が意味することは？～」 講師：福島県立医科大学 ふくしま 子ども・女性医療支援センター 医学部 小児科学講座 教授 横山 浩之氏 参加：幼保小中 83名</p> <p>④ 市教育研究会総合研究会（10月24日 各小学校開催）</p> <p>⑤ 市教職員研究実践発表会（1月10日 北鹿ろくめいホール） ◇発表題：「自分なりに考え、表現して遊ぶ子ども」 ～エピソード事例をもとに子どもの内面を理解し、保育者の関わり方を探る～ 発表者：城南保育園分園 参 加：幼保小中 52名 感 想：エピソードカンファレンスについて、丁寧に提示していただき、大変得るものが大きかった。タイミングの良い声かけ、支援、次のステップとつなげ関心意欲を高めていく実践例は、小学校における見取りとより高い気付きへと質を変化させていく過程と全く合致するものであり、幼保小がこうした取組を研修しあっていきたい。（小学校長） ◇発表題：「子どもの貧困 ～子どもと「支援」をつなぐ～」 発表者：子ども課 畠山齋子係長 参 加：幼保小中 106名 ◇発表題：「大館市におけるフッ化物洗口の成果と今後に向けて ～大館市の子どもむし歯ゼロを目指して！～」 発表者：大館北秋田歯科医師会 小笠原歯科医院 小笠原正卓 氏</p>

	<p>参加：幼保小中 50名</p> <p>感想：保育園で取り入れて、継続してきた効果がこのようにデータとしてはっきり見ることができて嬉しく思います。これからにつなげていく力になりました。（保育士）</p> <p>◇講演会：「一人たりとも置き去りにしない教育」</p> <p>講師：東京都日野市教育委員会 特別支援コーディネーター 宮崎 芳子 氏</p> <p>参加：幼保16園から43名</p> <p>⑥ 教育委員・社会教育委員による就学前教育状況視察 大館八幡こども園・大館乳児保育園(11/19)、森のおうち(11/26)</p> <p>⑦ 学区の合同研修：小学校の指定訪問への参加、園の外部評価への小学校の参観、小中連携協議会への参加</p>
--	---

(5)秋田県教育庁幼保推進課との連携体制の強化

目的	県との連携により、教育・保育アドバイザーの指導力と専門性の向上を図り、指導体制の充実を図る。
実施状況	<p>① 県幼児教育推進協議会、アドバイザー連絡協議会への参加・・・他市の教育・保育アドバイザーとの意見交流、情報交換</p> <p>② 県指導主事との訪問同行・・・各園の保育や研修への評価を共有、指導助言の在り方など専門性の向上</p> <p>③ 他市における公開保育参観・・・他市の教育・保育アドバイザーが実際に助言する様子、園内研修への関わり方などを参観</p> <p>④ 市開催の各種研修会での講師・・・最新情報の提供、より専門的な指導により、高い受講者の満足度</p> <p>⑤ 本事業に係る打合会の開催・・・北教育事務所指導主事、幼保指導員と市の保育アドバイザー、教育・保育アドバイザー、市教委教育監による課題の共有、次年度事業の協議</p>

4 事業の成果及び今後の課題、改善の方策

(1) 教育委員会教育研究所と福祉部子ども課、基幹保育園の連携体制による訪問指導、事業・研修会の開催

成果	<ul style="list-style-type: none"> 市独自の研修会が定着し、公私の区別なく、多くの受講者がある。受講できない職員が少なくなり、県や市の目指す教育・保育の在り方が周知されている。 これまで、子ども課と教育研究所がそれぞれ開催している研修や訪問が、園や学校に情報共有されることで、日常的に様々な交流や参観の機会が増えている。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 市独自の各種研修会がマンネリ化しつつある。10年継続している研修会については、内容、時期、対象者、講師を大幅に見直す時期にきている。特に、年齢別研修は毎年、同じ受講者が同じ内容を受けている。 若手職員が増える中、キャリア別の研修内容の要望が多い。
改善	<ul style="list-style-type: none"> 本市主催の研修会やミニ公開保育は、近隣市へも案内する。逆に、他市の保育を参観する機会を設ける。 研修会の講師選定も吟味するとともに、園長もその役割を担わせることで、園長の指導力の向上も期待できる。

(2) 教育・保育アドバイザーによる市内全園への巡回訪問・指導

成果	<ul style="list-style-type: none"> 指定園を設け、アドバイザーが継続的に1年間支援する体制を作ったことにより、研修に深まりがあり、園がアドバイザー活用の効果を実感できた。 小学校への訪問回数は減ったものの、教育研究所の指導主事の学校訪問での低学年の様子を情報共有できており、各園に小学校教育の視点から様々なアドバイス、子どもの育ちの姿への助言が有効だった。
課題	<ul style="list-style-type: none"> アドバイザー活用への意識が園毎に差がある。特に、認定こども園、へき地保育所との関係性づくりが重要である。 随時、相談できることが、アドバイザーを頼りにし過ぎることにもつながる。
改善	<ul style="list-style-type: none"> アドバイザー活用の成果を、行政の立場から各園や市民に周知する機会を増やす。福祉部、教育委員会が様々な機会、報道を通して、PRしていく。 認定こども園やへき地保育所が課題としていることを把握し、アドバイスや資料を提供するなど信頼関係作りを丁寧に行っていく。

(3) 教育・保育アドバイザー並びに市内全園の研修リーダーの養成、基幹保育園の公開保育による研究成果の発信

成果	<ul style="list-style-type: none"> 保育参観後に簡易な意見交流の場を設けることで、参加者の保育を客観的に見る目や意識が変わってきた。参加者の感想が互いに共有されることで、保育への意識が深まっている。コンパクトな研修でありながらも、有効である。 アドバイザーがご褒みとして、午後の研究協議での内容や指導助言を周知することで、各園の研究成果が全園で共有された。 県教委が講師となつてのファシリテーター養成の研修は要望が多い。園内研修充実のためにはリーダー養成が必須である。
課題	<ul style="list-style-type: none"> お便りをタイムリーに発行し、各園のモチベーションにつなげる。読みやすく、分かりやすい紙面の工夫をしていく。 参加園に偏りがある。公開保育の情報の他に、研修の様子や研修受講者の感想もおたよりなどで発信することで、申込みを増やしていく。
改善	<ul style="list-style-type: none"> 未受講者にも研修の機会を確保するために、園長の理解を促すための周知を継続して行う。受講のメリットを前面に出せるよう、感想やその後の保育にどう役だったかななどの情報を意図的に集めておく必要がある。

(4) 就学前施設・小学校の教職員を対象にした合同研修会の充実

成果	<ul style="list-style-type: none"> 「幼保小連携推進会議」「幼保小担任研修会」の申込率が100%となり、全小学校・園が必要性を認識している。 歯科医師会から、5歳児からのフッ素洗口が中学3年生の現在の状況として発表された。長年の課題だった虫歯罹患率が大幅に減少した結果に、聴講した幼保小中の教職員が、連携の成果を共有できた。 教育委員・社会教育委員による園訪問を実施し、市の就学前教育の状況や小学校との連携について把握してもらうことができた。私立の園長から直接、経営や教育・保育の理念、要望を伝える機会となった。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 園と小学校の交流は学区による温度差がまだある。年間、似たような会議が重ならないよう調整する。 内容のマンネリ化、県の研修との違いを指摘する声もある。
改善	<ul style="list-style-type: none"> 職場体験のように、実際の指導に携わることで互いの教育をより深く理解する機会を設ける。 幼保小関係の研修会は、北地区合同研修会と内容の違いが区別できるよう、市独自の情報や取組を中心とした内容にする。また、毎年、違うテーマを設定するなどの見直しを図る。

(5)秋田県教育庁幼保推進課との連携体制の強化

<p>成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全訪問の56%を県の指導主事等と同行できた。保育の見方や指導助言の内容を共有することができることに加え、悩みや疑問にも随時応えてもらうことができ、アドバイザーの不安解消、専門性向上につながった。 ・年度初めに県の方針を共通理解する打合せ会を設け、訪問時は随時、具体的な保育を通して、全県的な視野から指導を受けることができた。年度末にも総括として、県全体から見た本市の課題を明確にすることができ本市の体制充実につながる。 ・他市の保育や園内研修を参観する機会が貴重だった。 ・指導主事を講師にした研修を開催できることで、地元を会場に多様な研修会に、より多くの教職員が受講できる。
<p>課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・同行により園への訪問者数が多くなるため、研究協議と指導助言の時間のバランスを工夫する必要がある。
<p>改善</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度も県の指導方針を理解しながら指導を推進するために、他市との交流や参観の機会を積極的に活用したい。設定されたアドバイザー研修の他にも、同行できる訪問の機会を依頼するなどして、本市にも取り入れられる事例をより多く収集したい。 ・同行時は、市としての立場を明確にして訪問する。研究協議と指導助言の時間のバランスに配慮する。

5 令和2年度の事業の構想

<p>目的</p>
<p>教育・保育アドバイザーを核にして、部局間連携、幼保小中連携によるリソースの活用、研修の場の拡大を図り、保育や授業の改善につなげるとともに、教育・保育の質の向上を目指す。</p>
<p>実施内容</p>
<ul style="list-style-type: none"> (1) 教育委員会教育研究所と福祉部子ども課、基幹保育園の連携体制による訪問指導、事業・研修会の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・各園のニーズに応じた訪問指導、研修の見直しを図る。 ・市主催の各種研修内容について、対象や目的を明確にし、改善を図る。 (2) 教育・保育アドバイザーによる市内全園への巡回訪問・指導 <ul style="list-style-type: none"> ・市福祉部子ども課の保育アドバイザーと本事業の教育・保育アドバイザーを核に据えた訪問指導の充実、拡大 (3) 教育・保育アドバイザー並びに市内全園の研修リーダーの養成、基幹保育園の公開保育による研究成果の発信 <ul style="list-style-type: none"> ・基幹保育園、園長会議、主任会議との連携による研究推進 ・基幹保育園以外の園、近隣市町村への研究成果の発信、研修機会の提供 (4) 就学前施設・小学校の教職員を対象にした合同研修会の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・互いの職場体験、見学の促進 ・就学後の姿をもとに協議、育ちをフィードバック ・研修対象に応じた内容の見直し (5) 秋田県教育庁幼保推進課との連携体制の強化 <ul style="list-style-type: none"> ・県幼児教育推進協議会、アドバイザー連絡協議会への参加 ・随時、最新情報を得ながら、県からの助言をもとに体制や研究内容を見直し

様式